



あっこさん「父との休日のひととき。自宅の裏庭にあったプランコ。お天気が良かったので、二人でプランコに乗り、父がプランコをこいでくれたのでした。撮影者は母。両親と一緒に最高の笑顔です」(昭和45年3月 渚元町)



ちよんさん「家族写真(母・兄・姉・私)」(昭和41年、上島町)



M・Mさん「大雪の日、大喜びの子ども達と雪だるまを作りました。自宅近くの坂道も雪が積もり、スキーをしたいと思います」(平成6年2月、黄金野)



雲川令子さん「前の家から持ってきた石臼でお餅つきを楽しむ父と娘たち。宮之阪周辺では餅つきの音も珍しくなりました」(昭和58年12月)



S・Mさん「50年前の夏休み、うみのほしの教会をバックに屋根の上の弟と妹を撮影しました。この頃、夕方には家々の屋根の煙突から風呂を薪で焚く煙が昇っていました」(昭和41年頃夏)



M・Gさん「近所のお姉さんと一緒に写真を撮ったものです。『福助堂商店』という駄菓子屋で、リンゴの木箱の上に駄菓子を並べて売っていました。店には赤電話があったり、パンや牛乳・ジュース、缶詰もあり、おきなどは計り売りました。昔のコンビニといったところです」(昭和39年頃、新之栄町)



KAZUさん「宗左の辻付近で父と自転車」(昭和33年7月頃)



プラムさん「市民病院前の坂をバックに屋上で、ママのお友達とバチリ」(昭和44年5月、西禁野付近)



Yさん「飼っていた鳥とともに」(昭和52年頃、甲斐田町)



Y・Gさん「大阪市内から引越して間もない頃、大好きだった伯母に遊んでもらっている写真です。当時、家の周りにはほとんど何もなく、現在の穂谷川清掃工場あたりまでが見通せるほどでした。今では周りには家がぎっしりと建ち並び、マンションや学校も建設され、風景は一変しています」(昭和37年頃、片鉾)



実家のペランダで弟と。この家はもうないが、今もある光善寺駅前テパートの壁面が見える。市場にはおもちや屋さんや豆腐屋さんがあってよくおつかいを頼まれた。



ひらかたパークでいとこたちと。春休みや夏休みになると恒例で遊びに行った。ヒーローショーに夢中だった。

高校生の頃、家から徒歩1分の蹠蹠図書館に毎日のように通った。子どもに混じって夢中で絵本を読みあさったのを覚えている。あれから20年、まさか絵本を作る側にいるとは。私の心の本棚は蹠蹠図書館のラインナップでできている。

### 毎日のように通った蹠蹠図書館

#### ミロコマチコさん

絵本作家。23歳から独学で絵を描き始め、デビュー作「オオカミがとぶひ」で日本絵本作家大賞を受賞。平成27年には「オレとさいる」がブラチスラバ世界絵本原画展で最高賞に次ぐ「金のりんご賞」を受賞した。



### 枚方ゆかりの人